

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

AA 研共同利用・共同研究課題「ユーラシア諸言語における談話の文法」(jrp000296)
2025 年度第 1 回研究会

日時: 2025 年 7 月 5 日 (土曜日)

午後 1:00～午後 6:30

場 所: AA 研 304 室 + Zoom (ハイブリッド)

13:00-13:10 児倉 徳和 (AA 研所員), 趣旨説明

13:10-15:00 林 徹 (AA 研共同研究員, AA 研フェロー), 「トルコ語指示詞の用法における空間と時間」

15:10-17:00 全員, 総合討論

17:10-18:30 全員, 成果公開に向けた打ち合わせ

今回の研究会では、1 件の研究発表と討論、および成果公開に向けた打ち合わせを行った。

林 徹 (AA 研共同研究員, AA 研フェロー) 「トルコ語指示詞の用法における空間と時間」

本発表ではトルコ語の指示詞の意味機能を şu を中心に検討した。発表ではまず、遠近、人称、距離+ジェスチャー、距離+joint attention、距離+新規導入という先行研究の分析の検討とがなされた。そして、発表者が行った、母語話者にレゴブロックを使った共同作業をタスクとして与え、タスクの遂行に伴う発話に現れる指示詞を調べる実験と、şu の使用が指示対象との距離の遠近とは関係しないこと、bu と şu が身振りを伴うこと多いのに対し、o はが身振りを伴うこと多いという実験結果が示された。そして本発表ではこの実験結果に基づき、şu を音声による直示的身振りと見なし、「şu は発話の瞬間を基準として時間以外の対象を指示する」という仮説が提示された。

質疑応答は、ベトナム語の指示詞の研究を専門とする安達真弓 (AA 研) をコメント

ーターとして迎えて行われ、また、研究会に参加していた2名のトルコ語母語話者による、発表で提示された例文についての内省判断も踏まえ、以下のような内容について議論が行われた。

- ・指示詞の分析のための概念である Discourse deixis の指示する範囲の確認
- ・連動読み、対比という指示詞の用法がトルコ語ではどの指示詞であらわされるか
- ・şu は話し手がコントロール可能でない指示対象であるか否か
- ・日本語の「あのー」「そのー」に相当する、指示詞がフィラーとして用いられる用法はトルコ語にはあるか

成果公開に向けた打ち合わせでは、代表者から課題の成果公開の場として国際シンポジウムを開催する計画と、成果論集を刊行の計画についての説明と、スケジュール等の相談が行われた。

以 上